

(様式第4号)

第6回 武石地域協議会 会議概要

1 審議会名	武石地域協議会
2 日 時	令和7年9月11日(木) 午後7時から午後8時15分まで
3 会 場	武石地域自治センター3階 大会議室
4 出席者	橋詰会長、坂上副会長、大島委員、北原委員、児玉委員、小林委員、桜井委員、佐藤委員、芝野委員、中原(夏)委員、樋沢委員、渡辺委員 【欠席委員5名】
5 市側出席者	酒井武石地域自治センター長、鈴木地域振興課長、竹花市民サービス課長、岩下産業観光課長、小松武石地域教育事務所長、下村地域総合調整幹、田中地域政策担当係長、佐藤地域担当主査
6 公開・非公開	☒ 公開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和7年9月12日
協 議 事 項 等	

1 開 会 (副会長)

2 あいさつ (会長、センター長)

3 報告事項

(1) 地域協議会の設置単位等の見直しについて【事前資料 1】(事務局説明)

- ・委員からの意見、質問なし

4 協議事項

(1) 第4回 地域協議会協議内容の確認について【事前資料 2】

- ・委員からの意見、質問なし

(2) 武石地域の住民自治組織の役割と今後の在り方について【当日資料 3】(事務局説明)

- ・委員からの意見、質問なし
- ・意見書(案)について、了承

(3) 委員数の見直しについて【当日資料 4】(事務局説明)

- ・委員からの意見、質問なし
- ・見直し(案)について、了承

5 その他

(1) 令和7年度 地域振興事業基金（持ち寄り基金）充当予定事業の追加について【当日資料 5】 （事務局説明）

○「武石温泉うつくしの湯整備事業」施設改修工事費（基金充当額 1,500 万円）

（事務局）現在、うつくしの湯を休館し大規模改修を実施している中で、エントランスの下がっている地盤を上げるため掘削をしたところ、建設当時の図面よりも大きな基礎部分が出てきたため、増工が必要になった。9月補正予算には増工分と同額で基金充当額 3,500 万円を計上しているが、そのうちの 2,000 万円については過疎債を活用できる見込みのため、残りの 1,500 万円について基金を充当したい。

【質疑等】

（委員）掘削したら建設当時の図面よりも大きな基礎部分が出てきたということだが、施工内容のチェックは 25 年前も現在も実施しないのか。

（事務局）埋め戻してしまう工事に関しては、通常は埋め戻す前に写真に残している。地形的に厳しいため、基礎部分を厚くしたと考えられる。掘削してみて初めて判明したことから、仮に埋め戻してから改めて掘削すると経費が余計にかかってしまう。

（委員）図面が事後に修正されていればよかったと思うので、今後に生かしてもらいたい。
今回の増工により、全体の工期は延びるか。

（事務局）全体の工期は令和8年1月5日までであるが、市としては12月にオープンとなるよう、施工業者には11月完了となる工程を組んでもらっていた。今回の増工について、建築課と施工業者で調整した結果、現場は止まらずにいけそうとの話も聞いているが、工事の進捗によっては工期が延びる可能性がある。

（会長）事業費 3,500 万円の財源として過疎債 2,000 万円、基金 1,500 万円は大きい金額なので、住民にとって、分かりやすく、納得ができる説明をお願いしたい。

（事務局）基金をできるだけ充当しない方向で進めていきたい。

○「武石総合グラウンド管理事業」施設用備品購入費（基金充当額 27.5 万円）

（事務局）現在使用しているグラウンド整備用の昭和 50 年代製のトラクターが春に故障してしまったため、中古のトラクターを購入したい。なお、基金充当額は事業費と同額で 27.5 万円としたい。

【質疑等】

（委員）中古のトラクターを安く購入することができるとのことだが、ロータリーを使用するのか。

（事務局）ロータリーは付いているが、基本的には使用しない。グラウンド整備用アタッチメントを付けて通常はグラウンド整備に使用するが、アタッチメントを交換することで、除雪もすることができる。

(2) 上本入林野火災の復旧予定について

（事務局）関連する新聞記事が9月3日に掲載されたので、御覧になった方もいると思うが、森林整備課によると、6月30日に住民説明会を開催した上で、復旧する際に補助事業（補助率7割、自己負担3割）を活用するか、保安林に指定して国・県事業（自己負担なし）にするか、土地所有者に意向確認を進めてきたところ、保安林に指定して国・県事業として進めるということで、共有林を含めて全ての筆で最低1人の同意は得られた。また、9月5日及び9日に下小寺尾、権現、下本入の各自治会長に説明を行い、同意をいただいたとのことである。

県によると、今後、現場の測量設計業務を11月補正予算に計上し、補正予算が成立すれば今年度中に測量設計業務に着手する。来年度からは地元説明会を開催しながら、治山事業（山留工、落石防止壁など）を複数年にかけて進めていく予定であると聞いている。

【質疑等】

（委員）連絡がつかない土地所有者についてはどのように扱うか。

（事務局）県によると、国・県事業として進める上で、共有林については全ての方の同意を得るのが望ましいが、相続人がいない場合などの理由により、最低1人の同意でやむを得ないとしている中、森林整備課では、後々問題にならないよう、3自治会長の同意書をいただく予定とのこと。

（会長）復旧工事はいつから始まるか。また、大雨や大雪が降った場合、崖崩れの心配はどうか。

（事務局）県によると、今年度は測量設計業務を行い、来年度から工事に着手する予定であると聞いているが、複数年かかる事業なので、森林整備課を通して、早期着手を市から県に要望していきたい。また、崖崩れの恐れがある場合は、通行止めにするなどの対応を考えていきたい。

（3）行事等の開催予定について

- ・ 美ヶ原高原自然再生事業（ササ刈り） 【10月4日（土） 午前10時～】
- ・ 次期過疎計画の策定に係る住民説明会 【10月21日（火） 午後7時～】
- ・ 武石地域交流秋まつり 【11月2日（日）、3日（月・祝）】
- ・ 令和7年度 第3回武石地域防災会議 【11月16日（日） 午後1時30分～】

（委員）先日、美ヶ原高原に行ったが、大勢の観光客が来ていた。木道がボコボコになっており、素晴らしい景観にもかかわらず、下を向いて気を付けて歩かないといけない状況で、破損がひどい箇所にはカラーコーンが置かれていた。うつくしの湯整備事業と同様に、過疎債を活用すれば木道の整備も実施可能ではないか。また、美ヶ原高原自然再生事業（ササ刈り）と同様に、ボランティアを集めて木道を修繕する行事として位置づけたらどうか。いつ怪我をしても不思議ではないので、大事になる前に実施したほうがいい。

（事務局）実際に怪我をされた方もおり、毎年、予算の範囲内で修繕を実施している。現在、令和8年度からを計画期間とする次期辺地計画を策定しており、辺地債を活用しながら木道の整備をしていきたいと考えている。下のほうは半永久的に維持できるよう擬木で整備し、上のほうは撤去するなど、事業費を集中的に投入して実施していきたい。また、ボランティアを集めて木道を修繕するという提案はありがたい話なので、前向きに検討していきたい。

（4）第7回 地域協議会の日程について

日時：令和7年10月9日（木） 午後7時～

場所：武石地域総合センター3階 大会議室

6 閉 会（副会長）